

市民福祉委員会会議録

1. 開催年月日

平成28年 9月14日 開会 9時58分 閉会 13時35分

2. 開催場所

委員会室

3. 出席委員名

三輪 順治	河合 謙治	荒木 謙二	坊野 公治
大鳴 二郎	宮地 俊則	佐藤 豊	

4. 欠席委員名

なし

5. その他の会議出席者

(1) 議長 上野 安是

(2) 副議長 西田 久志

(3) 説明員

副市長	三宅 生一	市民生活部長	北村 宗則
健康福祉部長	山田 正人	病院事務部長	野崎 正広
市民生活部次長	北村 容子	健康福祉部次長	猪原 忠教
病院事務次長	中原 康夫	市民生活部参与	藤井 護
環境課長	柚野 裕正	子育て支援課長	和田 広志
介護保険課長	川上 邦和	健康医療課長	田平 雅裕
健康福祉部参事	三村 信介	甲南保育園長	青江 淳子
芳井保育園長	三宅 弘美	偕楽園長	竹井 博範
芳井支所長	三宅 孝一	美星支所長	金高 常泰
福祉課長補佐	伊達 卓生	戸籍住民係長	池田 真弓
総務部次長	渡邊 聡司	総務課長補佐	片井 啓介

(4) 事務局職員

事務局長	川田 純士	事務局次長	岡田 光雄
主査	大山 次郎		

6. 傍聴者

- (1) 議員 三宅文雄、簗戸利昭、森本典夫
- (2) 一般 1名
- (3) 報道 0名

7. 発言の概要

委員長(三輪順治君) 皆さんおはようございます。

定刻から少し早いようでございますけれども、ただいまから市民福祉委員会を開会いたします。

初めに、副市長のごあいさつをお願いいたします。

〈副市長あいさつ〉

副市長(三宅生一君) 皆さんに、改めましておはようございます。

たそがれどきの虫の音に本当に秋を感じているところであります。

そうした中にもけさの新聞にもありましたが、厚労省がきのう発表した医療費が4兆1千460億0千000万円という記事もありました。昨年度、といいますか、27年度に対して26年度がそれより1兆5,000億0千000万円低かったという、それだけ伸びているということでもあります。いずれにいたしましても、こういうものを考えるときに給付と負担のバランスというもの、これをいかに調整していくかということが求められているというふうにも思っております。特に、負担を抑えることによって、結果として子供あるいは孫の世代にツケを回すということのないように、本当に今責任を持ってやっている私たちが、そういうことを十二分に考えていく必要があるんだろうというふうにも思っております。

また、台風のシーズンが本格的ということで、本当はかなり大きい台風もできてきております。秋の長雨のシーズンでもありますし、こういったものに対する私たちができるだけ減災の措置をとっていききたい、こういったものにも万全の措置をとっていききたいというふうにも思っています。

さらに、市民福祉委員会では、市の庁舎を初めとして窓口業務を多く持っております。市民課あるいは福祉介護、それから健康医療課、本当に支所も含めてであります。市民と接する上でそれぞれの職員が自覚を持って心温まる、そういった対応をしてくれているというふうにも思っております。今後もこういったことを本当に続けていきたいというふうにも思っているところであります。

そうした中、本日は市民福祉委員会を開催いただきました。皆様方には、何かとご多用の中お繰り合わせいただきました。本当にありがとうございます。

この委員会に付託されております案件であります。事件案件が1件ということであり、皆様方には慎重に審議をいただきながら、適切なご決定を賜りたいというふうに思っております。

なお、お手元に定例会報告事項ということで、多くが秋のイベント等についてご案内を差し上げる、そういったものになっております。後ほどお目通しのほうよろしくごお願い申し上げたいというふうに思います。本日はどうぞよろしくお願い致します。

〈議長あいさつ〉

（議案第57号 井原市立美星保育園の指定管理者の指定について）

委員(大鳴二郎君) 本会議で、この指定管理になられる方が2つの保育園をやられとるというのを聞いたんですけど、この2つの保育園の規模をまず教えてください。

それと、もしこの方が指定管理者になれば、保育士を雇うという、採用するということになるこの採用は、この指定管理者になった方がするのか、あるいは今までのように市のほうで保育士を探すのか、まずこの2点をお願いいたします。

子育て支援課長(和田広志君) 規模でございますけれども、社会福祉法人セイビ福祉会さんにおかれましては、せいび保育園それからせいび四季が丘保育園を運営されております。せいび保育園につきましては児童の定員が50名でございます。それから、せいび四季が丘保育園については児童の定員が80名でございます。規模としては児童の定員をもって説明をさせていただきました。

それから、保育士でございますけれども、これは市内7の保育園に委託しております私立の保育園と同様に、それぞれの事業所において募集し、採用されるものでございます。

委員(大鳴二郎君) 定員は今言われたんですけど、何人ぐらい入っとられるのか。

それと、今、これから事業所が保育士を探すということでありますので、これは了承しましたんで、定員を言われたんですけど、何人入っとるのか。

それと、美星保育園の、これから工事にかかるんでしょうが、いつごろかかっていつごろ完成する予定かをお願いします。

子育て支援課長(和田広志君) せいび保育園でございます。園児数でございます。8月1日現在でございますけれども53人おります。それから、せいび四季が丘につきましては、同じく8月1日現在でございますが82人おります。

それから、美星保育園の改修工事のことでございますが、10月から12月の3カ月で改修のほうをやっていきたい予定でございます。

委員(佐藤 豊君) 美星保育園の人員体制なんですけど、保育士さんは何名体制で保育をされるのか。

子育て支援課長(和田広志君) まず、定員でございますが、美星保育園の定員を9名と考えております。ということになりますならば、保育士の方が3人配置が必要でございますので、3人を配置される予定でございます。

委員(佐藤 豊君) 今回、ちょっと話が遠回りになるかもわかりませんが聞いていただきたいんですが、今回美星で市民の声を聞く機会がございました。そのときに、美星保育園の取り扱いについて住民の声をもうちょっと聞いてほしかったという声が二、三出たんですけれども、美星保育園を開設するに当たり地域住民の皆様方から声を聞かれたという経過はあるのでしょうか。

子育て支援課長(和田広志君) 地元説明でございますけれども、平成28年2月29日でございます。このときに、地元の関係者の方に美星の公民館にお集まりいただきまして説明を行ったところでございます。

それから、3月に入りまして、自治連合会長であったりとか、あとは地元関係者の代表の方に個々に説明等を申し上げて理解をいただいたものでございます。

委員(佐藤 豊君) 繰り返して質問で申しわけないんですけども、28年2月29日に公民館で説明会を開かれたということですし、その後自治連合会長さんに説明をしてご了解を得たというお話なんですけれども、そのときに出了声としては、美星の住民の声をもう少し聞いてほしかったといったようなニュアンスがあったんですけれども、十分保護者とか関係者の方の声は聞かれたという思いは持ってもらえますでしょうか。

子育て支援課長(和田広志君) 説明は十分したと認識はしております。

委員(佐藤 豊君) はい、終わります。

委員(宮地俊則君) 指定の期間が5年間となっておりますけれども、美星保育園に限ったことではないんですけども、指定管理団体いろいろありますし、業種もいろいろなんですけど、指定の期間がそれぞれ違ってきているように思うんですが。条例か何かで定められているのか、あるいは先方との話し合いで期間が決まるのかなど。いずれにしても何らかの基準があるのではないかなと思うんですけども、指定の期間の基準、そういったところをちょっと教えていただけますか。

子育て支援課長(和田広志君) 個々の業種での期間の定めというのは国、県とかの指示もございませんし、特にございませんが、このたびの美星保育園につきましては安定的な経営、運営をするために、ある程度は長い期間。それから、一方で社会情勢の変化に対応できるような、逆なちょっと短い期間。さらには近隣市、そういった事例を勘案いたしまして5年が妥当であろうということで定めたものでございます。同じように市内の施設でも、議員

さんおっしゃるように10年とか5年とかという施設ございます。これについては、それぞれの施設において、長期的な指定管理者が長期的な投資ができたり安定的な運営ができるように、それぞれの施設においてその都度判断して期間を定めておるところでございます。

委員(宮地俊則君) よくわかりました。今のお話ですと、おおむね業種によって決まってくるようではあるけれども、それぞれ、管理団体、相手方との話し合いによって期間を定めているというふうな考え方でよろしいんですか。

総務部次長(渡邊聡司君) 指定期間につきましてはあらかじめ募集要項の中に期間を定めてまいりますので、市のほうで決定をいたしております。

〈なし〉

〈討論〉

〈なし〉

〈採決 原案可決〉

委員長(三輪順治君) 以上で議案の審査は終了いたしました。

なお、委員会報告書の作成につきましては、委員長にご一任いただきたいと思います。

〈異議なし〉

〈所管事務調査〉

委員長(三輪順治君) 本日の所管事務調査事項は、お手元のほうに資料がありますけれども、井原市の介護予防・日常生活支援総合事業(介護予防・生活支援サービス事業)についてであります。

他の委員さんのほうでこのほか今読み上げました調査事項のほかに不測の事態により緊急に所管事務調査事項として追加すべきと思われるご提案がございましたらご発言をお願いいたします。

〈なし〉

委員長（三輪順治君） それでは、先ほどの所管事務調査事項に戻り、所管事務調査を行います。

〈井原市の介護予防・日常生活支援総合事業（介護予防・生活支援サービス事業）について〉

委員（佐藤 豊君） 済みません、再度の確認で。スマイルサービスのほうです、2ページ目の。これは、斜線が引いてあるところは今までは訪問介護で対応してたけれど、スマイルサービスでは斜線のところはもう対応しないというふうに理解してよろしいわけですね。

介護保険課長（川上邦和君） 説明の中でも申し上げましたが、無資格の方ですので、斜線の部分、身体介護、それから生活援助の中での8番の一般的な調理、11番の薬の受け取りは行いません。

委員（佐藤 豊君） はい、わかりました。終わり。

〈なし〉

委員長（三輪順治君） 本件については終わります。

以上で所管事務調査を終わります。

ここで執行部の方にはご退席願いたいと思いますが、何かございましたらお願いをいたします。

健康福祉部次長（猪原忠教君） ここで1つご報告をさせていただきます。

平成27年12月議会で議決いただきました普通財産であります芳井町旧共和幼稚園の無償貸し付けを受けました合同会社エコカレッジ井笠の現状についてご報告をいたします。

平成28年3月に県と市の事業である農山村サテライトオフィス等誘致事業補助金により、旧共和幼稚園のトイレ、屋根などを改修し、古本の販売作業に必要なパソコン、机などを整備されました。その後、就労継続支援A型の事業所としての認定を受け、7月1日に開所し、利用者を募集されております。現在、市内の2人の障害者の方が通所されており、作業内容は、ビニールハウス内でのイチゴの栽培をしておられます。

9月16日金曜日には、事業所の開所式が地元の関係者を招き、行われる予定です。

古本の販売許可も申請中ではありますが、許可後に販売事業を開始するよう準備を進めていると伺っております。

委員長（三輪順治君） 以上で所管事務調査を終わります。

ここで副市長のほうからご発言がございましたらよろしくお願いたします。

〈副市長あいさつ〉

副市長（三宅生一君） 終わりに当たりまして、一言お礼を申し上げたいというふうに思います。

委員の皆様方には、終始ご熱心に議論をいただきました。また、適切なご決定を賜りましたこと、厚くお礼を申し上げたいというふうに思います。通じていただきましたご意見あるいはご提言等につきましては、今後の市政に必ずや反映していきたいというふうに思います。本日はどうもありがとうございました。ご苦勞さまでございました。

委員長（三輪順治君） 執行部の皆様には大変ご苦勞さまでございました。

〈市民の声を聴く会での課題について書かれた解決策の処理方法について〉

委員長（三輪順治君） 次に、市民の声を聴く会での課題について書かれた解決策、含めてご説明いたします。

市民の声を聴く会で得られたものは、お手元のほうにきょう資料としてお示しをしておりますが、A4で11ページありますが、皆さんいいですね、欠落ないですね。

当委員会では、これにおける扱いをこれから議論するわけでございますが、大きく1ページにざっくり今回の13地区でいただきました総数565件で、先般全員協議会で市民福祉委員会に関係する意見ということで163件が取り上げられました。全体に占めるウエートは3割弱でございます。

その市民福祉委員会に関する意見の項目を大別しますと、その円グラフにありますように大きく6点ぐらいあります。

まず、子育てが4割、それからまちづくりに関することが3割弱、地域医療が16%、住環境が5%程度、高齢者にかかわることが、あるいは買い物支援を含めまして5%程度。こういうふうな形、あとはその他です。これはそれぞれそこにありますように、円のウエートで示せば、今回のテーマが人口減少問題を考えると、こういうことでしたので、こういう問題に帰着されております。

内容的には、2ページ、3ページ以降です。2ページはページの関係で省略してありますが、3ページ以降自主的に今の大別した項目と、それから小さい番号が打ってあります。番号は延べ番号で打ってありますので、例えばアが子育てに関連する意見、それからイが6ページでございますが、地域の医療に関する意見、それから8ページが地域のまちづくりに関する意見、10ページに住環境、高齢者、買い物支援、11ページにその他と、このようにまとめさせて、これは事務局のほうでしていただいております。

これからその取り扱いについて協議いたすわけでございますが、3委員長それぞれが打ち

合わせをしておりますので、全体的にどういう形になるかっていうのは余り、一応今のところ統一方針がございませんが、当委員会においてさきに全協で合意したことに係るものをもう一回読み上げてみますので、頭を整理する意味でお聞きください。

その処理の方法が3つパターンがありまして、1つはAという記号で示しておりますけれども、A、市の執行機関へ報告するもの。B、委員会として協議していくもの。C、意見として承るものと、こういうふうに3つございます。

なお、Aに分類したものは議長経由で市長へ報告をします。それから、Bについては今後の委員会等で協議をしていく。このような段取りになります。こういう形で3つに分けるといふところまでは全協で決まっておりますので、これからその処理方法について皆様とご議論をしながら先に進めていきたいと思っております。

今、事務局のほうで地区を問わない分類をしていただいておりますので、大体総括的に大きく4つ、5つの分野に分けられましたとございまして、これを1件ずつ処理いたしまししょうか、それとも大体アバウト、読まれてると思っております。こういう形ではきょう初めてだろうと思っておりますのでちょっとお時間をとりますけれども、A、B、Cで、特に委員長とすればBに該当する項目については委員会で継続審査、調査になりますので、特にBと掲げているもので、私とすればBであるべきだというふうなご意見ございましたら項目ごとにやる方法もございまして、皆様方のご意見をお伺いしながら進めたいと思っております。

どうぞこの進め方について、1件ずつやろうというのも結構でございますし、全体を通して時間をとりながらBについてはとりわけ対応していこうと、こういうご意見のご提案も結構ですし、これもAとCですか。

これは皆様方のご意見をもとに進め方を決めていきたいと思っておりますので、ご自由にご発言をお願いいたします。

委員（坊野公治君） きょうのこの段階は、このA、B、Cに振り分けるまで、もしBに振り分けたんであればきょうここでさらに協議をするという形になるんですかね。

委員長（三輪順治君） まず、振り分けはきょうの仕事にしたいと思っております。Bについてどうするかはまたこれから皆さんの、その後意見を聞きながら進めたいと思っております。

何もご提案ございませんようでしたら1つずつ押さえていきますが。

委員（宮地俊則君） そうしてください。

〈振り分けについて協議〉

〈「ワークショップ成果物協議先委員会分類表（市民福祉委員会）」のとおり決定〉

委員長（三輪順治君） どうも長時間にわたりましてご審議いただきました。

皆さんの分けられたことをございますから、委員長とすれば、これをそのまま議長と事務局に対してお伝えするという事にさせていただきたいと思います。

委員（宮地俊則君） 委員長、ちょっとよろしいです。

今、分類された結果をこれはこれでええんですけど、今度、各地区のほうへこの分類結果を、委員長さんがここへおられるんで、今この協議先の委員会における分類の指標を添付して送られると思うんですが、ただそれだけでこれを送られると、それぞれの地区、私の想像ですけど、恐らくすごい怒られると思うんです。

というのは、AとCでいっとるんですけど、誤解されましてBがないと。地区によっては一つもないところが出るんじゃないか。うちの委員会でもゼロですから。そうすると、結局Cで、言い方は悪いんですけど、議会は私らの意見は聞き流すだけかと。

要はほったらかしなんかというふうにとられかねませんので、かがみで、先ほども言いましたように、議会で20名全員が全部の地区のこういったご意見をしっかり見、認識し、共有してこれからの委員会活動、議員活動の一步につながり、それから事務調査、日常もう既にやってることであり、こういう意見があったということをしっかり認識して活動していくんですということをしかりと入れていただかないと、そういう誤解をどうも受けるような気がしてなりませんので。

ただ、答えを返しますとか、結果を見せますとかという必要は私はないと思うんですけど。この貴重な意見を全て議会として真摯に受けとめてやっていきますというところをぜひ強調して。されると思うんじゃないけど、そういうお考えはありませんか、持ってもらえますか。確認させてください。

副議長（西田久志君） こういうことは、今まで公聴広報委員会の中での最終的目標というのが、Bの調査研究を参考にし、政策提案等につなげる。これは議員たるものがそれだけのA、B、Cというものを総括して考えていくということが大前提ということは認識しておりますので。これをそのまま返すとそれはちょっとまずいという気持ちは持っておりますので、それはこれからも検討させていただきたいと。

委員（宮地俊則君） ぜひ、そういうところを誤解を招かないように、しっかりとした文章を考えていただいて、納得はしていただけないかもしれんですけど、誤解されないような返し方をぜひお願いしたいと思います。

委員（佐藤 豊君） 私も宮地さんと一緒に、今回市民の声を聴く会で各議員が現場でさまざまなお声をいただいたと思います。そうした中で、何回も言うんですけど、美星なんか、何か一つでも実現して、来年度は報告してもらうのを期待してますようなご意見も承っておるわけです。

そういった意味で、参加者の皆さんは初めてのことなんだけれども、ワークショップに取り組んで、自分たちの意見が述べれたということは、ある意味では自分たちの声を本当に反映してもらえないかという期待感もあったというように思うんです。その期待感を全く裏切るようなことをしては今回のワークショップの意味合いは全くないというふうに私自身思っておりますので。

そうした中で一つでも二つでも、これが来期の取り組みになるかと思うんです。今後、12月、3月議会でこれらの内容の中で、自分はこのについて議会で一般質問しようとかという取り組みもできるとは思いますけれども、現実的には来期の市民の声を聴く会のときに、報告事項として、昨年聞いたことでこれとこれとは取り組みをさせていただいて、こういう結果を生むことができました、それは皆様方の貴重なご意見を我々が聞かせていただいたと、感謝してますとか、そういった意味合いも持つような会にしなければならんと思うんです。そういった意味で今、宮地委員さんのほうが言われたように、そういったABCでもうドライに分けてますけども、それでは本当に納得してもらえないんじゃないかというのが僕は一番最初から危惧しとったことなんで。その点は、公聴広報委員会の方にはいろいろご迷惑かけますけども、その辺を重々勘案して今後の対応というのか、お返しの際の挨拶文のなかに組み込んでいただければ非常にありがたいかなというふうに思います。

委員（坊野公治君） 実は、私もこれを事前に見たときに、例えば魅力あるまちづくりを行うっていうのは、Bかな、Cかなっていうような感じで。ここで話せばCになるんだろうと。ただ、気持ちとしては、こういったまちづくり、よくすると子供が産みやすいまちにしていくとかっていうのは、議員全員がそういうふうに思っとるとするのは皆さん、もちろん議員はそういうふうに思っとると思いますし、そういうふうな町にしていこうという気持ちはあるんで。ただ、この中での分類でいくと、じゃあBにすると、じゃあ具体化してどうするんかということなかなか難しいので、その辺は議員の意識の中で酌んでいって、このたびはこう分けてますけど、自分らが落とし込むというか、そういうふうな気持ちを持つということではないかなと。それを文章にするのは難しいかもしれないですけど、そういう形で委員長、考えましょう。

副議長（西田久志君） 今まで5回やった市民の声を聴く会でのいろいろな意見を、まだまだ出てないということでワークショップ形式にしたと。6回目をワークショップ形式にしたことによって、すばらしい意見が出てきました。アンケートもまとめてもらって、そういう中でそのアンケートも出た。それを20人の議員が本当に皆さん見て、こういう意見が、市民の方がこういう考え方を持ってもらえるんだということが大成果だと思うんですよ。

それから、今回も一般質問の中で市民の声を聴く会で、皆さんのお声の中でという言葉が議員の方、一般質問の中で言われたということが大きな成果ではないかなと思いますし、こ

れを参考にしてまた一般質問も、まず手短ですから、そういうところから市民の声を得た成果をしていただきたいなというふうな思いがございますので、皆さん、貴重な意見を、私が3つの委員会に出ますんで、お聞きしたいと思えますんで、よろしく願いいたします。

委員長（三輪順治君） 公聴広報委員長である副議長のほうから今、基本のお考えが示されましたので、この市民の声を聴く会では今、課題についての分類分けをしましたけれども、その分類分けは終わりましたけれども、皆さんの思いは、広報委員長のほうから語られましたので、これをもって終わりとしたいと思えますが、他に意見ありましたらどうぞよろしく願いします。

〈なし〉

委員長（三輪順治君） それでは、閉会に当たりまして、改めて議長が今不在でございますが、副議長、何かございましたらよろしく願いします。

副議長（西田久志君） 大変難しい分け方だったのではないかなと思えますけれど、慎重な審議のものと的確に分けていただいたなというふうなことを理解しております。どうも大変ご苦労さまでございました。ありがとうございました。

委員長（三輪順治君） 以上で市民福祉委員会を閉会いたします。ご苦労さまでした。

○子育て

地区	第1の作業		第3の作業		振分先委員会	分類	No
	付箋紙に書かれた内容	付箋紙のグループ名	各班において選択した課題について書かれた「解決策」				
出部	子どもが結婚しない	人口減少	結婚しない理由は種々あるが、子育て・教育・就職と将来の見通しに不安がある事が大きいと思われる。子育て環境、教育環境、就職環境を向上させる。 ----- 母親が病気の子どもを預けることができる保育所（医師か看護師常駐）の設置が必要。		全委員会	C	1
出部	結婚しない男女が多い				市民福祉	A	2
出部	結婚より楽しい事が多いのではないか						
出部	結婚が自由になり広い範囲で住む所が地元を離れるため帰ってこない						
出部	若い人が少なくて出会いの場が少ない						
出部	晩婚化が進んでいる						
出部	親が子どもに対して過保護である						
出部	小児科病院がない（いざという時）						
出部	赤ちゃんが2人目以上が有利な社会基盤をつくる						
出部	人口減少になる問題が明確にされていない						
出部	減るのはしかたない、減ってもその中でできることをしていく町に						
出部	人口が減っても幸せな暮らしができればいいのでは						
出部	市外からの流入が少ない						

地区	第1の作業		第3の作業			
	付箋紙に書かれた内容	付箋紙のグループ名	各班において選択した課題について書かれた「解決策」	振分先委員会	分類	No
出部	経ヶ丸について	子育て	生活の安定。	市民福祉	C	3
出部	子育てに関するすべての費用を高校卒業まで無償にする		若い人が生活する環境作り。	市民福祉	C	4
出部	出産		保育園等の確保。	市民福祉	C	5
出部	子育て					
高屋	子供の医療費は支給はあるが、予防接種の方もお願いしたい	出生・子育て	出生率、結婚	市民福祉	C	6
高屋	子供が少なく幼稚園児が少ない		高校生まで医療費の無料化	市民福祉	C	7
高屋	保育園の土曜日保育をお願いしたい		子育て中の母親が就職する場合、就職していなければ子供を預かってくれない現状はおかしい。預かってもらうことが決定していれば、就職も本腰で探せる。(私の娘の体験より)。保育園をもっと増やして、充実させることで、他の市町村より井原市へ定住すれば働きやすいと、ロコミとかネットとかで子育て中の方が増え、人口増に繋がるのでは	市民福祉	C	8
高屋	子供の人数が少なくクラス替えがない		幼稚園を充実させる。→市内だけでなく市外の方も、あの保育園に子供を通わせたい!と思えるような工夫があるとよいのでは	市民福祉 総務文教	C	9
高屋	共稼ぎ夫婦の安心に働ける子供の保育場所の確保、仕事を探している段階から		子供の減少、すなわち井原市の定住者の減少にあると思うので、魅力的な、保育料の余りかからない保育施設の充実	市民福祉	C	10
高屋	子供が減り、地域によっては学校など集団として成り立たないところも…		保育所を増やす。助成金・給与UP(職員)	市民福祉	C	11
高屋	子供の活動の場がなくなるのでは?、スポーツ、施設		企業に託児所	市民福祉 建設水道	C	12

地区	第1の作業		第3の作業		振分先委員会	分類	No
	付箋紙に書かれた内容	付箋紙のグループ名	各班において選択した課題について書かれた「解決策」				
高屋	保育料の一定化	子育て	子育てがしやすい環境に		市民福祉	C	13
高屋	子育て支援の充実		子供を育てるには、心の余裕が必要だと思う。親の心にゆとりを持たせるには…時間的なものがある。子供の勉強をみてる場がある。子供にいろいろな経験をさせてくれる場がある		総務文教 市民福祉	C	14
高屋	多子世帯に対する支援を増やして欲しい		子育てをしやすい環境を整える。子供が成長するに従い、教育費もかさむ為、子供が多い世帯への補助（支援を増やしてほしい。）		市民福祉	A	15
高屋	多子世帯に対する支援が少ない						
高屋	子供との時間がとれない						
高屋	少年団活動が大変						
高屋	一人では生活できないお年寄りが、一人で生活しないとけない現実をなくしていかないとけない						
高屋	仕事が忙しく、若い男女の出会いの機会が少ない	会社・仕事	井原から仕事先（福山笠岡などの工業団地）へ通勤するために、若い夫婦を呼び込む。そのために住宅補助金増額、子供の補助金増額、18歳までの子供医療費の無償化、保育園の保育時間の延長と無償化		建設水道 市民福祉	C	16
高屋	仕事目線で職種が少ないため、他に出て行く						
高屋	魅力のある企業が少ない						
高屋	産業経済、国内						
高屋	グローバル経済、海外進出、多						
高屋	井原市内に良い企業が無く、若い人の流入がない。地元企業の奮闘、努力						

地区	第1の作業		第3の作業	振分先委員会	分類	No
	付箋紙に書かれた内容	付箋紙のグループ名	各班において選択した課題について書かれた「解決策」			
高屋	親の面倒をみない子（成人）が多い	家庭	子供の教育、就労世帯の幼児預かり、小学生の放課後の学童保育、夜7時までの施設を増やす。料金も負担軽減を図る⇒受け入れ施設の人たちの賃金アップにより、人材を確保する	市民福祉	C	17
高屋	結婚しない男女が多い					
高屋	結婚しない人が多くなっている					
高屋	わが子に対し、結婚し、子をもうける事は自然の姿と教え説得する					
高屋	住宅地	福祉	高齢者福祉も大切であるが、将来の井原を担う若者に、もっとお金を使い、働きやすい、結婚しやすい子作りしたい、子育てしたい、政策を実施する	市民福祉	C	18
高屋	補助金、住宅・子供					
高屋	産婦人科医					
高屋	深夜営業の病院（市民病院） 21:00~6:00					
高屋	結婚したくても、できない若い方が多くおられる	若い二人に	結婚されている若い方には、育児のフォローをして出産を考えてもらえるようにするとよい	市民福祉	C	19
高屋	若い人が市外、町外に転出しているように思う					
高屋	子供が少なくなってきた					
高屋	若者が転入できない					
高屋	一人暮らしの家庭が多くなっている					
高屋	若い人との別世帯で、若い人が一緒に居住してくれない					
高屋	若者に魅力がない町					
高屋	子供の遊び場がない					

地区	第1の作業		第3の作業		振分先委員会	分類	No			
	付箋紙に書かれた内容	付箋紙のグループ名	各班において選択した課題について書かれた「解決策」							
高屋	20年後600万人、全国の認知症患者を井原に	就職・仕事	子供がいても働ける…		市民福祉	C	20			
高屋	就職先が少ない									
高屋	大手企業誘致									
高屋	地元の企業に就職したが、東京勤務が続いて帰ってこれない									
大江	子育てにお金がかかるため、少子化になるのでは。	子育て	医療費の一部免除・増額。婚活パーティーの回数を増やす。		市民福祉 建設水道	C	21			
大江	子供の教育費が高い		結婚支援をすることが必要。子ども手当（出産祝い金、子育て支援等）の充実。もう少し費用を↑するとか。安心して子育てができる環境づくり。低所得者層も安心して子供を産み、育てられるように。					市民福祉	A	22
大江	生活面でお金がかかりすぎる									
大江	親との同居を好まない子が多い									
大江	将来は結婚して子育てをするという自然な気持ちになれるような教育が必要									
大江	子育て支援の充実	子育て	子供が少ないのに預かるところが少ない。働く人の子育て支援、どのようにしたらいいのかわからない。子どもを産みやすい環境を作ればよい。核家族が増えて、子どもを預けなくては仕事ができないため、たくさん産めない。		市民福祉	C	23			
大江	子供の事を考えた施設が少ない。		長時間の預かり。					市民福祉	C	24
大江	生まれる子供が少ない。									

地区	第1の作業		第3の作業			
	付箋紙に書かれた内容	付箋紙のグループ名	各班において選択した課題について書かれた「解決策」	振分先委員会	分類	No
大江	小学校の通学バス	交通	大江町内に保育園を作り、仕事をしている人が働ける時間を作る。7時～19時保育。その家族の送り迎えの巡回バス（小型）を回してもらおう。小学校も送迎が必要。（じいちゃん、ばあちゃんがしている。）	市民福祉	A	25
大江	交通の便が悪く家を出る。					
大江	小さい子供の送迎のバスを走らせる。					
大江	巡回バスの経路が病院に行かない。					
大江	あいあいバスを小さくして細かく回る。					
稲倉	子育てに費用がかかりすぎる	何故子供を産まないか	経済的理由	市民福祉	C	26
稲倉	経済的に不安定な為結婚できない		雇用が不安定	市民福祉 建設水道	C	27
稲倉	仕事と育児の両立が困難		子育てと仕事が両立できない	市民福祉	C	28
稲倉	晩婚・未婚化している		ゆとりがない 時間、お金	市民福祉	C	29
稲倉	0歳児からの保育所					
稲倉	何故子どもを産まなくなったのか	未婚はなぜ多いのか	夫婦で子育ての自信がない	市民福祉	C	30
稲倉	子どもが減って3年後50人体制となる					
稲倉	学校の将来像を今から検討すること					
稲倉	出生数の分析をすること					
稲倉	病院がない	子育て	子どもが安心して生活できるようにする	総務文教 市民福祉	C	31
稲倉	一家族当たりの子どもの数が少ない					
稲倉	子どもの遊ぶところがない					
稲倉	産婦人科がない					
稲倉	未婚者の増加					

地区	第1の作業		第3の作業		振分先委員会	分類	No
	付箋紙に書かれた内容	付箋紙のグループ名	各班において選択した課題について書かれた「解決策」				
県主	一時保育の充実が必要	結婚	子供が生まれたら支援金をしっかりと出す		市民福祉	A	32
県主	独身者が多い						
県主	子供が結婚しない						
県主	結婚(独身者)の対策(お世話おばさん)						
県主	子供の人数少ない(小学校、幼稚園)	少子化問題	2人目の子供にお祝金30万、3人目の子供にお祝金50万		市民福祉	A	33
県主	若い人が住みたいと思う環境。学区外に出るにはなぜ?		じいちゃん、ばあちゃんが孫のもりをする。その時、市の施設を利用する時は無料にする		市民福祉	C	34
県主	「県主は色々あるから大変なんじゃろー」と言われる(子育て世代に)町づくりとか役員をしなくてはいけないとかだと思ふ						
県主	保育園にあずける人が多いのは幼稚園が大変というイメージがあるかららしい。県主幼稚園の子供は少なすぎる!						
県主	小学校の生徒数が減り複式授業になるかも						
県主	県主小学校の子供が減っている(自分の頃と半減しているのでびっくりしました)						
県主	私の小学校の同級生で地元にいるのは、私を含めた2人です						

地区	第1の作業		第3の作業		振分先委員会	分類	No
	付箋紙に書かれた内容	付箋紙のグループ名	各班において選択した課題について書かれた「解決策」				
県主	イベントなどの参加が減っている	少子化問題	子育て世代の経済的支援		市民福祉	C	35
県主	役員たいへん		子育ての社会的な仕組みづくり		市民福祉	C	36
県主	行事ができなくなる						
県主	学校の合併						
県主	子供が年々減っている						
県主	子供の数が年々少なくなっている						
県主	小学校存続できる・・・?						
県主	子供が年々減っている						
県主	子供達の遊ぶ場所少ない						
木之子	大きい子がいないので孫が小学校へ通うのが心配	子育て	地域（地元）の企業（働く場所）と話し合いの場を設ける（子育てサロン等）		市民福祉	C	37
木之子	子どもを預けて仕事ができる環境をつくる		公的支援充実（もの・金）		市民福祉	C	38
木之子	地域で子育て支援を行う		施設の充実		市民福祉	C	39
木之子	地域全員で子育てするセンターを開設する		若い人が住める環境をつくる（自然・職場・住宅）		市民福祉 建設水道	C	40
木之子	地域での仕事がとても少ない						
木之子	地場産業がもっと元気になってほしい（工業団地があるが）						
木之子	「安全・安心の町づくり」は重要な課題として取り組んでいる (ex. ネットワークづくり)						
木之子	木之子町の魅力は子育て環境（学校が多い）に比較的恵まれているので、もっと生かしていこう						
木之子	子育てしている親の話し合いの場を作る						
木之子	教育問題						

地区	第1の作業		第3の作業		振分先委員会	分類	No
	付箋紙に書かれた内容		付箋紙のグループ名	各班において選択した課題について書かれた「解決策」			
荏原	若者の定住には雇用（仕事）と出会い（結婚）環境（子育て）の整備が		若者問題	若者の定住には、仕事、出会い、子育てなどの条件がそろわなければ、地域から出ていく。行政として総合的に考えてほしい。	全委員会	A	41
荏原	若い人が市外へ出ていく						
荏原	未婚者の増加						
荏原	自分には子供が5人いるが、子供を増やすには子ども手当が少ない。多ければもう少し産むと言っている。						
荏原	子供の減少		少子化	井原に転入、出産でのメリットを作る。若者の住みよいまちづくりをする。	市民福祉	C	42
荏原	自治会に若い人がいないので、子供も少ない						
荏原	子供の数が少ない		子供の数が少ない	子育て世代が住みやすいまちづくり。支援ネットワーク。	市民福祉	C	43
荏原	出生児が少ない						
西江原	市の助成金を希望		子供	核家族	市民福祉	C	44
西江原	地区の子供の数がどんどん減少している						
西江原	小さい子供が遊べる水場がない						
西江原	子供の人数が減少し淋しい		若者の減少	子育て世代に金銭的な策、安全安心の策を作る	市民福祉	A	45
西江原	結婚する人が少ない						
西江原	なぜ、結婚をしないのか						
西江原	若い力のある人が少ない						
西江原	働く場が少ないため、外に出てしまう						
西江原	賀山では子供ができない。井原市全体に病院がない。産科、小児科						
西江原							

地区	第1の作業		第3の作業		振分先委員会	分類	No
	付箋紙に書かれた内容	付箋紙のグループ名	各班において選択した課題について書かれた「解決策」				
西江原	独身者が少なくなれば良い	若い世代の結婚、出産	結婚、出産、現状より手厚い補助金を出す		市民福祉 建設水道	A	46
野上	市営住宅の若い人利用率少ない	人口問題	子育て、若い人が少ない		市民福祉	C	47
野上	未婚者が多い		子供がいない		市民福祉	C	48
野上	結婚する人が少ない						
野上	住民が少ない						
青野	子どもの減少、青野小の減少	子育て	大学生までの学費補助。		総務文教 市民福祉	C	49
青野	地区での若い人が少ない（人口減少）		医療費の無料の年齢を18歳までにあげる。		市民福祉	C	50
青野	子どもを育てるのにお金がかかる						
青野	高学歴による学費が多くかかるため、多数の子どもが持てない						
青野	学費が高く子どもの数を制限してしまう						

地区	第1の作業		第3の作業						
	付箋紙に書かれた内容	付箋紙のグループ名	各班において選択した課題について書かれた「解決策」	振分先委員会	分類	No			
青野	他市からの転入についての居住場所の確保	青野ならではの住宅問題	<p>本当に子育てを考えているのなら市民に耳を傾けてほしい。「条例だからできない（絵に書いたモチ）」「やったことが無いから無理」「お金が無いから出来ない」という議会はどうなんですか？「無い」「できない」というのを望んでいない市民です。</p> <p>3人目以降の子どもを産んだ世帯に国が助成金を出す。市町村が補助金を出すと取り合いになってしまう。</p>	市民福祉 建設水道	C	51			
青野	住む家がないので青野に来れない						市民福祉	C	52
青野	青野地区への転入を希望する人が多い（少なくない）が、住むところがない			市民福祉	A	53			
青野	住宅へ入る手段								
青野	住宅から住宅はなぜダメか								
青野	空き家を活用の（貸してもら）のための有効な手立ては？								
青野	空き家バンクの登録発表は前進させるべき								
青野	ぶどう作りをするために青野に転入する人（家族）への住環境整備を								
青野	青野ならではの公営住宅が可能とならないか								
青野	青野住宅から井原小学校へ通学している。地域とコミュニケーションができない。								
青野	給料が少ないと何人も子どもは育てられない	子育て	<p>気軽に安心して子どもを預けられるシステムをつくる!!今の一時保育はいろいろめんどうだ！保育園の費用・病気（軽い）の時でもみてもらえる所。</p> <p>子どもにかかる費用の補助。</p>	市民福祉	A	53			
青野	地区に子どもがいなくなった						市民福祉	C	54
青野	小さい子どもを預かってもらえるところが近くにない								

地区	第1の作業		第3の作業		振分先委員会	分類	No			
	付箋紙に書かれた内容	付箋紙のグループ名	各班において選択した課題について書かれた「解決策」							
青野	夜間受け入れてくれる病院が遠い(小児)	医療・子育て支援	中学卒業までを高校卒業まで医療費の無料化。		市民福祉	C	55			
青野	医療無償を中学から高校卒業まで延ばしてほしい									
美星	若い世帯に美星から仕事先まで行くのに時間と経費(ガソリン)せめて住宅費を安くする	子育ての問題	保育所が現在ない		市民福祉	C	56			
美星	若い人の要望をもっと聞く		預かり時間に問題					市民福祉	C	57
美星	子育て世代への施策が薄い		若い人の意見が反映されていない							
美星	ゼロ歳から5歳までの子供が預けられる保育所をつくる									
美星	若い人に魅力ある街づくり、子育て支援(教育、病院の無償)									
美星	若い人のこのような会に出やすい時間を考えていかないと本当の意見は聞けない									
美星	子育てしやすくするには町内の保育園etcいるが夕方迎えが間に合う時間にしないと使えない									
美星	子育ての条件を充実									
美星	子どもが多い家には市からボーナス	子育ての問題	安心して子育てができる環境		市民福祉	C	59			
美星	保育所の充実		職場の協力体制					市民福祉	C	60
美星	子育てにお金がかかる									
美星	給料の水準が高い働く場の不足									
美星	職場が無い	働く場の問題②	保育園などの整備		市民福祉	C	61			
美星	企業誘致									
美星	若い人の働く場所が無い									

地区	第1の作業		第3の作業		振分先 委員会	分類	No
	付箋紙に書かれた内容	付箋紙の グループ名	各班において選択した課題について書かれた「解決策」				
美星	若者の結婚推進	子育て支 援・結婚	子育て支援、1人100万・2人200万の助成		市民福祉	C	62
美星	生涯独身者を減少させる						
美星	子どもの多いほど助成金を増やす						
美星	安心して育てられる環境						
美星	子育て補助						
美星	町婚						
美星	井原市内での雇用の確保	就労の場	働きやすい環境づくり		市民福祉 建設水道	C	63
美星	企業誘致の促進						
美星	新卒就労者に対し自宅より通勤者に助成する。Uターンを含む						
美星	働く場所						
美星	保育の充実	子育て支援	義務教育を含め全経費を公費負担にする		総務文教 市民福祉	C	64
美星	子育て支援						
美星	子どもに金をかける、学費無償化、公務員、議員の経費削減を充てる						

○地域医療

地区	第1の作業		第3の作業		振分先委員会	分類	No.
	付箋紙に書かれた内容	付箋紙のグループ名	各班において選択した課題について書かれた「解決策」				
井原	医療機関を充実させる	医療の充実	市民病院の運営体制の充実、産科婦人科の設置		市民福祉	A	65
井原	病院、市民病院の受け入れが悪い		日常医療の充実		市民福祉	C	66
井原	救急車の受け入れができない		救急搬送の受け入れ体制		市民福祉	A	67
高屋	インフルエンザのワクチンが高い!	医療	インフルエンザのワクチンを一定の金額、または集団で出来る場を提供していく		市民福祉	C	68
高屋	医療費が高すぎ		インフルエンザのワクチンを無料にしてほしい。高くてワクチンを打てない人が多い。そのためインフルエンザがまんえんすることになる。		市民福祉	C	69
高屋	ワクチン、無料に						
高屋	住宅地	福祉	福祉の充実、医療機関の診療時間拡大、市民病院の土曜診療、平日の受付時間延長		市民福祉	A	70
高屋	補助金、住宅・子供						
高屋	産婦人科医						
高屋	深夜営業の病院（市民病院） 21:00~6:00						
高屋	20年後600万人、全国の認知症患者を井原に	就職・仕事	人口増対策と経済効果（衣食住⇒医職充）全国のアルツハイマー（認知症）患者を井原市に迎え、佐々木先生とタイアップでひとつの経済区（町）を作る。大学を誘致したのと同等の効果がある		市民福祉	C	71
高屋	就職先が少ない						
高屋	大手企業誘致						
高屋	地元の企業に就職したが、東京勤務が続いて帰ってこれない						
大江	医療機関専用団地の設置により、より良い医療を受けられるようにする。	医療機関	行政と現場の話し合いの充実を図る。市議の積極的な取り組みが必要。		市民福祉	C	72
大江	20才まで医療費無料。						

地区	第1の作業		第3の作業		振分先委員会	分類	No
	付箋紙に書かれた内容	付箋紙のグループ名	各班において選択した課題について書かれた「解決策」				
稲倉	病院が近くにない	医療環境	(市の予算で)夜間診療などの充実をしてほしい		市民福祉	C	73
稲倉	病院がない						
稲倉	産婦人科がない						
稲倉	18時以降、夜間小児科がない						
木之子	人口増加施策の具体事項の不詳	人口問題	医療の充実（機関等）		市民福祉	C	74
木之子	若年減少と高齢化対策						
木之子	畑をもりする人がいない						
木之子	人口減少要因、原因は何に？						
木之子	出産（子ども）がどこも減っている（木之子は若い人の割合が多いが）						
木之子	男女、特に青年の活動の場をつくる						
木之子	医療（公的）機関の整備（安心・安全）						
荏原	結婚に夢がないのか	少子化	365日24時間対応の小児科救急病院と、産婦人科の開設。市民病院は総合病院でなく、民間医療機関が取り組めない分野に特化する。子育ての安心、若い父母を応援する。		市民福祉	A	75
荏原	結婚していない人増		医療施設（含む産婦人科）の創設。市民病院で。赤字になってもよい。井原に戻ってくる環境づくり。				
荏原	子供の人口減						
荏原	子供数減、若い人が他へ家を建てる						
荏原	子供の教育環境が弱い						
荏原	少子高齢化対策について						
荏原	教育がある面プラス、ある面マイナス						
荏原	親の負担増（P役員）						

地区	第1の作業		第3の作業		振分先委員会	分類	No
	付箋紙に書かれた内容	付箋紙のグループ名	各班において選択した課題について書かれた「解決策」				
荏原	若い世代は地域行事に関心がない	若い人・子供	若い人が定着せず子供が少ないのは、病院と企業（働く場所）が問題。この対策を行う。		市民福祉 建設水道	C	77
荏原	地域の労働力減						
荏原	消防団に新入団員が入らない						
荏原	若い人が少ない						
荏原	結婚すればお祝い金をする						
荏原	子供の遊び場が少ない						
荏原	子供がいない						
荏原	子供、出産すればお祝い金を出してもらいたい						
荏原	個々の生活が大事になっている						
荏原	子供の遊び相手が少ない						
荏原	病院の問題（小児科、夜間）	病院	市民病院を検討してみる。手薄な部署の対応。救急、小児等。市民病院と呼べるものを。		市民福祉	A	78
荏原	夜間の小児救急がない		病院の問題は井原市のみでなく、笠岡、浅口、矢掛、里庄にわたり広域で夜間小児対応病院を作る。		市民福祉	C	79
荏原	病院のジャンルがかたより過ぎている		夜間の小児救急が無いうえに、市内に内科、小児科が多いくせに乳幼児は見てくれない。市民病院は科によって、外部からの医者が来るが、いざという時に役に立たない。ここに行けば大丈夫な病院があれば、現在住んでいる人も、これから来る人も安心できる。		市民福祉	C	80
荏原	井原に大学がない	欲しい物	人口を増やすには、住みやすい地域にすることが必要。近くに店舗、医療、行政機関が欲しい。高齢で車の運転が出来なくなると、生活に困ることになる。		全委員会	C	81

地区	第1の作業		第3の作業		振分先委員会	分類	No
	付箋紙に書かれた内容		付箋紙のグループ名	各班において選択した課題について書かれた「解決策」			
西江原	病院がない（産婦人科）		病院	産婦人科病院がほしい	市民福祉	A	82
西江原	病院の役割分担、終末期と急性期のすみわけ			夜間対応の小児科がほしい	市民福祉	A	83
				子育て環境の充実	市民福祉	C	84
西江原	子供の人数が減少し淋しい		若者の減少	高校を卒業と同時に、他県他市の大学、専門学校へと進学、その後社会人になる時において、Uターン、地元への就職はまずない。魅力があり、安定した収入、安定した生活が送れるような企業誘致なり、住んでみたいと思う病院、福祉の充実が必要ではないでしょうか。全てを良くするのではなく、これだけは井原市は絶対に魅力、自信ありをきめて「子育ては、医療の充実した井原市で！」	建設水道 市民福祉	C	85
西江原	結婚する人が少ない						
西江原	なぜ、結婚をしないのか						
西江原	若い力のある人が少ない						
西江原	働く場が少ないため、外に出てしまう						
西江原	賀山では子供ができない。井原市全体に病院がない。産科、小児科						
青野	夜間受け入れてくれる病院が遠い（小児）		医療・子育て支援	通常診療時間外の診療（平日2～3時間）を当番制で行うのはどうか。（残業みたいに）	市民福祉	C	86
青野	医療無償を中学から高校卒業まで延ばしてほしい			診療時間を18：00頃までしてほしい。	市民福祉	C	87
青野				夜間医療を順番にしてほしい。	市民福祉	C	88
青野				夜間、休日小児科医療（専門医）の充実。	市民福祉	C	89
青野							
美星	病院の建設		公共施設の充実	病院を充実	市民福祉	C	90
美星	保育所の設置が遅すぎる						
美星	保育所の充実						

○まちづくり

地区	第1の作業		第3の作業		振分先委員会	分類	No.
	付箋紙に書かれた内容	付箋紙のグループ名	各班において選択した課題について書かれた「解決策」				
井原	人づくりのチャンス見逃さないこと	魅力の創出、町づくり、物づくり	魅力ある町づくりを行う		全委員会	C	91
井原	アイデア商品の考案を楽しむ						
井原	布、紙で何かを作る、考える楽しみ						
井原	若者が地域に残り活躍したいという町づくり						
井原	町づくりの会での集客の増						
出部	子どもが結婚しない	人口減少	地元の人たちの繋がりでアイデアも浮かび生きる喜びも楽しみも出来て良い町になる。		市民福祉	C	92
出部	結婚しない男女が多い		井原市に結婚して住みたいと思われるような地域の町づくり。 (新たな移住者)		全委員会	C	93
出部	結婚より楽しい事が多いのではないか		増やそうといろいろ取り組まれていつも難しい現状。減ってもその中でできることを考える。		全委員会	C	94
出部	結婚が自由になり広い範囲で住む所が地元を離れるため帰ってこない		今までの発展を求めるのではなく、ゆっくりとした社会の中で充実感を味わうことのできる町づくり。		全委員会	C	95
出部	若い人が少なくて出会いの場が少ない		現状、増やそうとしてもなかなか難しい。減ってもその中で。		全委員会	C	96
出部	晩婚化が進んでいる						
出部	親が子どもに対して過保護である						
出部	小児科病院がない(いざという時)						
出部	赤ちゃんが2人目以上が有利な社会基盤をつくる						
出部	人口減少になる問題が明確にされていない						
出部	減るのはしかたない、減ってもその中でできることをしていく町に						
出部	人口が減っても幸せな暮らしができればいいのでは						
出部	市外からの流入が少ない						

地区	第1の作業		第3の作業	振分先委員会	分類	No
	付箋紙に書かれた内容	付箋紙のグループ名	各班において選択した課題について書かれた「解決策」			
出部	人にしてもらおうでなく自分のできることを小さいことでもする (ボランティア精神を)	生活環境	町づくり、地域の力を生かした町。	市民福祉	C	97
出部	町づくりを発展させていく					
出部	子育てが安心できる仕事と共立					
出部	小さすぎる学校ではよりよい人間関係が作りにくい					
出部	若い人達のニーズに合った町づくりができていない					
出部	住んでいて楽しい町					
出部	病院にもっと先生がいてほしい					
高屋	結婚したくても、できない若い方が多くおられる	若い二人に	地区で集いの場があれば、若い方たちにも参加してもらい、活動の場を広げ、それが出会いの場になれば…と思う 魅力あるまちづくり	市民福祉	C	98
高屋	若い人が市外、町外に転出しているように思う					
高屋	子供が少なくなってきた					
高屋	若者が転入できない					
高屋	一人暮らしの家庭が多くなっている					
高屋	若い人との別世帯で、若い人が一緒に居住してくれない					
高屋	若者に魅力がない町					
高屋	子供の遊び場がない					

地区	第1の作業		第3の作業		振分先委員会	分類	No
	付箋紙に書かれた内容	付箋紙のグループ名	各班において選択した課題について書かれた「解決策」				
稲倉	地域のことを考える場・人が少ない	人の世話	おせっかい人がいない(必要だ)		市民福祉 建設水道	C	100
稲倉	結婚相談所を設ける						
稲倉	おせっかい人がいないため、婚活、子育て等で若い人は面倒くさくなる。						
稲倉	考えはあっても(ソフト)実施(アクション)特にハード面をする人がいない						
稲倉	買い物難民	地域の課題	役員の伝承		市民福祉	C	101
稲倉	役を引き受けたら後がない						
稲倉	コンビニない						
稲倉	アパートがない						
稲倉	スーパーがない						
稲倉	バス停までが遠い						
稲倉	市営住宅の建て替え(匠住宅)						
稲倉	コンビニがない、人が集まる場所がない°						
県主	地元に戻って来る人がすくない	生活	近所のつながりを大切にする 声かけや、定期的な訪問 助け合い事業の充実		市民福祉	C	102
県主	結婚しても町内、市外に住む人が多い						
県主	組内の草刈り(春・秋)人がいない						
県主	後継ぎのいない家が多い						
県主	人が少なくなり役が重なる(学校・地区)						
県主	コンビニが無い						

地区	第1の作業		第3の作業		振分先委員会	分類	No
	付箋紙に書かれた内容	付箋紙のグループ名	各班において選択した課題について書かれた「解決策」				
県主	若い人が少ない	人口減少問題	若い人が帰って来れる勇気が持てる地域づくり		市民福祉	C	105
県主	町民運動会を西方vs門田にしてしまえば選手選びが楽なのに		元々地元の人ではない人をあたたかく受け入れられる気質を1人1人が持つ		市民福祉	C	106
県主	体育祭の年代別リレーが行えなくなっている。きびしい		年寄の方は、若い人のやり方につべこべ言わない。(厳しい目を持って優しく見守ってもらう。事は大事だけど、その時その時で柔軟に対応し、変化しなくては)		市民福祉	C	107
県主	子供の人数少ない(小学校、幼稚園)	少子化問題	不便を楽しむまちづくり		全委員会	C	108
県主	若い人が住みたいと思う環境。学区外に出るにはなぜ?						
県主	「県主は色々あるから大変なんじゃろー」と言われる(子育て世代に)町づくりとか役員をしなくてはいけないとかだと思ふ						
県主	保育園にあずける人が多いのは幼稚園が大変というイメージがあるかららしい。県主幼稚園の子供は少なすぎる!						
県主	小学校の生徒数が減り複式授業になるかも						
県主	県主小学校の子供が減っている(自分の頃と半減しているのでびっくりしました)						
県主	私の小学校の同級生で地元にいるのは、私を含めた2人です						

地区	第1の作業		第3の作業			
	付箋紙に書かれた内容	付箋紙のグループ名	各班において選択した課題について書かれた「解決策」	振分先委員会	分類	No.
木之子	隣近所は年寄りばかり	集いの場	近隣相互のきずなが弱くなり、相互扶助の力が失われている現状から60歳代の人を中心に各地区に組織（ネットワーク）をつくる	市民福祉	C	109
木之子	家事から離れてウサバラシする場所が必要（相談する）		現に、惣谷カフェなど具体的な組織と活動がうまれており、希望がある。	市民福祉	C	110
木之子	世話人が必要		各地区ですることとして、1. 話し、2. 体操、3. 行事（惣谷カフェ）などが考えられる。年齢をこえて協力していけば、いい「集いの場」が生まれると思われる。	市民福祉	C	111
木之子	助け合った生活が出来なくなる		各地区、公民館で地域住民の（企業・シニア・子育て中の親）等で懇談会等を設ける	市民福祉	C	112
木之子	女性の集まる場所がない（公民館とは別）		一日中家から出ず、子どもと居るのは大変である。ノイローゼになる。そこで、家から離れ、子どもと共に一カ所に集まり、数々の悩みを皆さま方と話し合い、悩みを解消する方法	市民福祉	C	113
木之子	世話人に払う金が必要		コミュニティー活動策の推進（老若男女の参画）	市民福祉	C	114
木之子	地域行事に多くの町民が参加しているが、この良さを町づくりに生かしていきたい（今年は夏祭りに高校生ボランティアが参加した）		集まる場所は歩いて行ける近くがよい。そこへ行けば、1日自由に過ごせたと感じる様な内容にする。	市民福祉	C	115
木之子	古い伝統行事の再興、コミュニティ活動					
木之子	各地区の公民館を活用して、気さくに集まって話をし、知恵を出し合おう					
木之子	住人相互の「きずな」の醸成(育成)					

地区	第1の作業		第3の作業		振分先委員会	分類	No
	付箋紙に書かれた内容	付箋紙のグループ名	各班において選択した課題について書かれた「解決策」				
木之子	井原の中心が不明（人が集まる場所）	コミュニケーション	なんでも話し合える雰囲気を作る		市民福祉	C	116
木之子	プライバシーを気にするため横のつながりがなくなっている		なんでも話し合える場所（機会）を考える		市民福祉	C	117
木之子	核家族化していること		サロン、カフェをもっと盛んにする（結構年寄りがかかるよ）		市民福祉	C	118
木之子	自治会等役員をする人が少ない		地域内に住んでいる人が日頃から十分なコミュニケーションが図れるよう色々な行事や気軽に近所づきあいができることが毎日楽しく住んでみたい地域となるのでは！		市民福祉	C	119
木之子	人とのまじわりの度合いが減ってきている（都会並みになっている）		人の集まる場所をつくる		市民福祉	C	120
木之子			市内に人が集まる場所がない（点でしかない）		市民福祉	C	121
荏原	結婚に夢がないのか		少子化	子供を育てやすい地域づくり。子供と親に温かい地区民。子供を中心に、親と学校と地区民の絆を強める。みんなで楽しく仲良く心を開いて交流することを増やす。		市民福祉	C
荏原	結婚していない人増						
荏原	子供の人口減						
荏原	子供数減、若い人が他へ家を建てる						
荏原	子供の教育環境が弱い						
荏原	少子高齢化対策について						
荏原	教育がある面プラス、ある面マイナス						
荏原	親の負担増（P役員）						

地区	第1の作業		第3の作業		振分先委員会	分類	No.	
	付箋紙に書かれた内容	付箋紙のグループ名	各班において選択した課題について書かれた「解決策」					
荏原	若い世代は地域行事に関心がない	若い人・子供	住みやすい環境づくり。地域に溶け込みやすい方策。 子供を育てる環境は、自然があり、地区の人のつながりもありとても良い。ただ、人数が少なすぎるうえに、若い人と地区の人のつながりがうすいので、新しく入ってきたひとはたぶんやりにくい。地区の行事は若い人は嫌がる。親が消防団の勧誘を断る。		市民福祉	C	123	
荏原	地域の労働力減				市民福祉	C	124	
荏原	消防団に新入団員が入らない							
荏原	若い人が少ない							
荏原	結婚すればお祝い金をする							
荏原	子供の遊び場が少ない							
荏原	子供がいない							
荏原	子供、出産すればお祝い金を出してもらいたい							
荏原	個々の生活が大事になっている							
荏原	子供の遊び相手が少ない							
荏原	夏祭り（地区・市）若者が発散できる場がない	若者を大事にしていない	若者のリーダーの養成。リーダーの若返り。子育てしやすいしくみ、制度作り。 若者の意見を聞き、実現、納得できる場をつくる。（例）市夏まつり⇒よさこいバージョンなど時間、評価できるように。 集まれる空間づくり。		総務文教 市民福祉	C	125	
荏原	若者が活躍できる場がない				市民福祉	C	126	
荏原	子育てしやすいまちづくり				市民福祉	C	127	
荏原	若い人が住みにくい所	住みにくい	多くの意見が出せ、参加者が納得できる場（例）まちづくり⇒ワークショップ形式に。 地域の行事や習慣を見直す時期が来ている。地域（自治会）情報公開。		市民福祉	C	128	
荏原	荏原地区が3本の矢になっていない				市民福祉	C	129	

地区	第1の作業		第3の作業	振分先 委員会	分類	No
	付箋紙に書かれた内容	付箋紙の グループ名	各班において選択した課題について書かれた「解決策」			
西江原	祭り等の地域事業の維持	地域の維持	高齢化、少数化にともない、時代の変更等により、必要性の少なくなった自治会活動、地域活動等を少しずつ減らしていく方向で検討する	市民福祉	C	130
西江原	高齢化で若い人がいない。地域活動がやりにくい					
西江原	回覧物の数が多すぎる					
野上	市営住宅の若い人利用率少ない	人口問題	集落の維持	市民福祉	C	131
野上	未婚者が多い					
野上	結婚する人が少ない					
野上	住民が少ない					
青野	小学校の複式	子ども・若者の問題	ビアガーデンなどイベントをすればみんなが集まれるかな？	市民福祉	C	132
青野	近所で同じくらいの年の人がない（女子が）					
青野	若者に魅力ある場所が少ない					
青野	子ども同士で遊ぶ場がない					
青野	おしゃれなお店がない					
青野	店が少ない					
青野	友達と遊ぶ場所がない					
青野	井原にマクドナルドがない					

地区	第1の作業		第3の作業		振分先 委員会	分類	No
	付箋紙に書かれた内容	付箋紙の グループ名	各班において選択した課題について書かれた「解決策」				
美星	女性が好む町にする	若者の問題	地域（自分の街に）自信を持つ、魅力ある街と思う心、（住みたいと思えるような）		全委員会	C	133
美星	若者に夢を（スポーツ、星、学業）						
美星	結婚推進をする						
美星	おせっかい人育成						
美星	子どもの減少						
美星	井原市内に住みたい魅力をつくる	魅力ある町 の問題	井原市を住みたくなる街にする		全委員会	C	134
美星	魅力あるふるさと						
美星	井原限定で販売する品物を作る						

○住環境

地区	第1の作業		第3の作業		振分先 委員会	分類	No.
	付箋紙に書かれた内容	付箋紙の グループ名	各班において選択した課題について書かれた「解決策」				
県主	新しい家をもっと建てれば	生活関連の 問題	地元に戻っても働ける、生活出来る環境を作る		市民福祉 建設水道	C	135
県主	市営住宅(アパート)増えないかない						
県主	街灯が少ない						
県主	荒れ地が増えそう						
県主	空き家が増えている						
県主	危険な場所が多い						
木之子	無人の家屋が増加している	生活環境	住みたい、住んでみたい環境づくりを！		全委員会	C	136
木之子	道路に不法投棄		公地の除草くずの処理を無償としたらどうか		市民福祉	C	137
木之子	イノシシが多く出る						
木之子	住宅が建設されていない						
木之子	公地の雑草処理ができない						
木之子	イノシシ、猿等の野生の動物の被害が増加している						
木之子	交通の便が悪い						
木之子	畑他の荒れたところが増加している						

地区	第1の作業		第3の作業		振分先 委員会	分類	No
	付箋紙に書かれた内容	付箋紙の グループ名	各班において選択した課題について書かれた「解決策」				
西江原	人間の生き方を、文科省が道筋を作ること	人口	人口の減少については仕方のない部分もありますが、それによって一人住まいの方々が増えて社会の安心安全が奪われたりするようになります		市民福祉	C	138
西江原	人口減少、なぜ悪い						
西江原	人口減少は仕方ない						
西江原	一人住まいの家がますます増える						
西江原	人口減少は仕方のないことです						
西江原	安全安心の社会が消えつつある						
西江原	戦争はいつ起こるのか						
野上	鳥獣の駆除特に、サル（市で特区制定を願う）	地域美化、 農業振興	桜、花桃等花を植える		市民福祉	C	139
野上	耕作放棄地に桜、花桃を植える		環境美化		市民福祉	C	140
野上	道路沿いに花をたくさん植える						
野上	道掃除をする（ごみのポイ捨てが多い）						
美星	町道等の草刈りは市でして欲しい	環境美化	県・市からの助成、市道の草刈り範囲の拡大		市民福祉 建設水道	A	141
美星	自然環境の美化						
美星	県道の草刈りをもっと広く						
美星	環境（景観）						
芳井	市有地の草刈り	環境整備	雑草処理を地形により単価を変える。回数を増やしてほしい。		市民福祉	A	142
芳井	県道の整備						
芳井	道路整備						
芳井	雑草の処理						
芳井	草刈りが充分できなくて、結果3年で2名が転倒						

○高齢者

地区	第1の作業		第3の作業		振分先委員会	分類	No
	付箋紙に書かれた内容	付箋紙のグループ名	各班において選択した課題について書かれた「解決策」				
高屋	近所に空き家が多い。田畑が荒れてしまう。高齢化	空家	施設化（グループホームなど）		市民福祉 建設水道	C	143
高屋	テナントの空きが多い						
高屋	空家、空き地の活用						
高屋	空家又アパートの空室が多い、特に公共の建物						
高屋	スーパー、飲食店の減少						
稲倉	雇用の場の確保	若者定住の 促進	老人の生活環境の整備		総務文教 市民福祉	C	144
稲倉	学校卒業後、地元に戻る環境						
稲倉	20,30年先の見通しが立たない						
稲倉	転出した人の内訳を把握すること						
西江原	賀山地区にゲートボールとか老人の憩いの場となる場所がない	集いの広場	高齢者が一人暮らしをしている場合、サロンの集いの場があることで、いつまでも楽しく過ごせると思いコミュニケーションの大切		市民福祉	C	145
西江原	戸倉公民館が古い		だんだん一人暮らしの家が増えているので、皆でおしゃべりを楽しむ場を作って欲しい。だんだん車も乗れなくなるし歩いていける場所がよい		市民福祉	C	146
西江原			集会所が便利のいい場所にあれば良いけれど場所が悪い		市民福祉	C	147
芳井	老人が多くなり、芳井、井原へ出ることが難しい様です	高齢者	老後が安心して暮らせるまちづくりをしてほしい。		市民福祉	C	148
芳井	老後が安心して暮らせない（年金等）						
芳井	健康への不安						
芳井	元気な人が少ないため、役が多すぎて困ってゆっくり仕事ができない						

○買い物支援

地区	第1の作業		第3の作業	振分先 委員会	分類	No.
	付箋紙に書かれた内容	付箋紙の グループ名	各班において選択した課題について書かれた「解決策」			
稲倉	店がない	生活環境の 問題	移動販売をしてほしい	市民福祉	C	149
稲倉	コンビニがない					
稲倉	お年寄りが気軽に歩いて行けるお店がない					
稲倉	買い物難民	地域の課題	高齢者の買い物支援	市民福祉	A	150
稲倉	役を引き受けたら後がない					
稲倉	コンビニない					
稲倉	アパートがない					
稲倉	スーパーがない					
稲倉	バス停までが遠い					
稲倉	市営住宅の建て替え(匠住宅)					
稲倉	コンビニがない、人が集まる場所がない°					
荏原	買い物が高齢化につれて困難が生じている	買い物不便	荏原地域に商店(コンビニ別)がない。移動販売車が1度来た が、その後話を聞かない。	市民福祉	C	151
荏原	買い物できる店の減少					
荏原	買い物が不便					

○その他意見

地区	第1の作業		第3の作業		振分先委員会	分類	No.
	付箋紙に書かれた内容	付箋紙のグループ名	各班において選択した課題について書かれた「解決策」				
井原	全国から人が集まるイベントをする（単発ではなく継続性のある物）	市のPR	何かのイベントをして市外に向けてPRする		全委員会	C	152
井原	井原市として誇れるイベントを立ち上げる						
井原	PRが市内だけが多い県外市街に向けて発信する						
高屋	親の面倒をみない子（成人）が多い	家庭	わが子に対し、結婚し、子供をもうけることは、自然の姿と教え、説得する		総務文教 市民福祉	C	153
高屋	結婚しない男女が多い						
高屋	結婚しない人が多くなっている						
高屋	わが子に対し、結婚し、子をもうける事は自然の姿と教え説得する						
高屋	結婚したくても、できない若い方が多くおられる	若い二人に	どんどん子供を生むこと		市民福祉	C	154
高屋	若い人が市外、町外に転出しているように思う		若い人が参加できるイベント				
高屋	子供が少なくなってきた						
高屋	若者が転入できない						
高屋	一人暮らしの家庭が多くなっている						
高屋	若い人との別世帯で、若い人が一緒に居住してくれない						
高屋	若者に魅力がない町						
高屋	子供の遊び場がない						

地区	第1の作業		第3の作業		振分先委員会	分類	No
	付箋紙に書かれた内容	付箋紙のグループ名	各班において選択した課題について書かれた「解決策」				
木之子	人口増加施策の具体事項の不詳	人口問題	町興策（イベント）		全委員会	C	156
木之子	若年減少と高齢化対策						
木之子	畑をもりする人がいない						
木之子	人口減少要因、原因は何に？						
木之子	出産（子ども）がどこも減っている（木之子は若い人の割合が多いが）						
木之子	男女、特に青年の活動の場をつくる						
木之子	医療（公的）機関の整備（安心・安全）						
野上	健康に気を付けて	健康対策	たばこをやめて酒を1日1～2合位にしておく		市民福祉	C	157
野上	安心できる老後施設への案内		毎日1時間程度散歩する		市民福祉	C	158
野上	家族を大切に（大世帯）		腹八分で好き嫌いしない		市民福祉	C	159
野上	いつまでも元気で長生き		子供のラジオ体操に参加する		市民福祉	C	160
野上	長生きすること						
野上	住んで楽しい村づくり						
美星	仕事場（職・会社）	仕事場	ボランティアセンターを早く作る		市民福祉	C	161
美星	ふるさと祭りで大々的に市外の方に発信	人の流入	イベントを多くする		全委員会	C	162
美星	若者の転入		若者の転入を行う		全委員会	C	163
美星	イベントを多くする						
美星	集団見合いをする						